

夢に向かって

相手に寄り添う気持ちを大切に——

松浦 彩矢 さん (県北中3年)

第18回



私の将来の夢は幼稚園教諭になることです。私は保育所に通っていませんでしたので、幼稚園に入園したときになかなか友だちができず、なじめずにいました。そんな時に優しく声をかけて、友だちの輪に入れるように手助けをしてくれた先生がいました。そんな先生に憧れを持ち、幼稚園教諭を目指そうと思うようになりました。

私は、勉強とかいろいろな事に対して、気持ちのスイッチが入らないとなかなか動くことができないので、休憩する時なども時間を決め、メリハリを持って行動できるように心がけています。最近は、集中して勉強することができていないので、受験に向けて頑張らなくては

いけないと思っています。また、自分の夢に向かって一生懸命に頑張っている姉の姿も刺激になっています。

夢が叶ったら、子どもたちに対してただ優しいだけでなく、悪いことはきちんとダメだと教えてあげられるような先生を目指したいです。そして、子どもたちにしっかりと寄り添って、さまざまな不安を取り除いてあげられるような存在になりたいです。また、周囲の人たちに対しても、困っている人がいれば進んで助けに行く、悩みを聞いて少しでも力になれるような大人になれるよう、頑張っていきたいです。



町長コラム

ま
真こらむ

【第27回】

愛情の気配 ～青少年剣道大会～

今年で58回目の国見町・桑折町青少年健全育成剣道大会。暑い中の熱戦。剣士たちの試合ぶりに心打たれる。特に今年は、小学2年、6年、中学2年、3年の4兄弟と母親の5人で参加する家族に目が留まる。

団体戦。4兄弟が小6と中3のチーム、小2と中2のチームに分かれて対戦したときのこと。小2の弟と小6の兄の試合。激しい当たりで仰向けに倒れ、面が外れそうになる小2の弟。試合中断。同じチームの中2の兄が駆け寄り、面を外し、顔をのぞき込む。泣きじゃくる弟。母親と一緒に面を着け直してあげて「大丈夫だよ、行け!」と試合場に送り出す。再開。弟が兄に挑む。兄は手加減しない。兄の勝ち。悔しくて泣く弟に声を掛けてから自分の試合に臨む中2の兄。負けた子の肩を抱いて励ます母親。気になって尋ねると「母親は大学でも剣道してた有段者。今も4人の子どもたちと一緒に剣道してるんだよ」と、審判長の佐久間広昭さん。

兄弟であっても、親子であっても試合は試合。でも、試合が終わると家族5人で楽しそう。その中心にいるのは小2の子。母親と3人の兄たちは、剣道を始めたばかりの小2の弟を気遣い、可愛がってる気配がすごい。

改めて会場を見渡すと、その気配は大会を運営する審判、計時、記録、救護の係を担う剣道連盟支部役員、保護者たちも醸し出してる。小学生と中学生の剣士たちに、会場にいる大人たちが注ぐ眼差しに、たくさんの愛情を見た大会…。素敵でした。そしてまた来年。



引地 真